

地元説明会

境川(逢妻女川・逢妻男川)・猿渡川流域での
特定都市河川浸水被害対策法の
適用について

次 第

開 会

- 1 あいさつ
- 2 特定都市河川浸水被害対策法の適用について説明
- 3 質疑応答
- 4 その他

閉 会

特定都市河川浸水被害対策法は

背景

- ・平成12年の東海豪雨、平成15年の福岡豪雨など、都市部での浸水被害が頻発

法律制定

- ・平成16年5月に施行された法律

目的

- ・流域内の市街地における浸水被害の軽減を図ることが目的

対象

- ・都市化の進展により、河川改修のみでなく総合的な治水対策が必要な地域

二級河川 境川(逢妻女川・逢妻男川)・猿渡川
の流域で **平成24年4月1日**から

特定都市河川浸水被害対策法を適用し、
浸水被害の軽減を図ります

境川(逢妻女川・逢妻男川)・猿渡川の 流域の状況

豊田市内における流域

境川（逢妻女川・逢妻男川）・猿渡川流域
流域面積 約70km²



法律の 適用区域

境川(逢妻女川・逢妻男川)
・猿渡川の流域位置図 流域面積約266km²



指定地域(10市2町)

- 名古屋市緑区の一部
- 刈谷市の一部
- 豊田市の一部
- 安城市の一部
- 東海市の一部
- 大府市の一部
- 知立市の全域
- 豊明市の一部
- 日進市の一部
- みよし市の一部
- 東郷町の一部
- 東浦町の一部

今までに行ってきた 整備や対策

境川(逢妻女川・逢妻男川)・猿渡川の流域では、
昭和58年より、**総合治水対策**を実施してきました



内 容

- ①河川の整備
- ②地下への浸透
- ③一時的な貯留
- ④ハザードマップ公表

愛知県による河川改修事業



逢妻男川の改修状況(豊田市高美町地内)

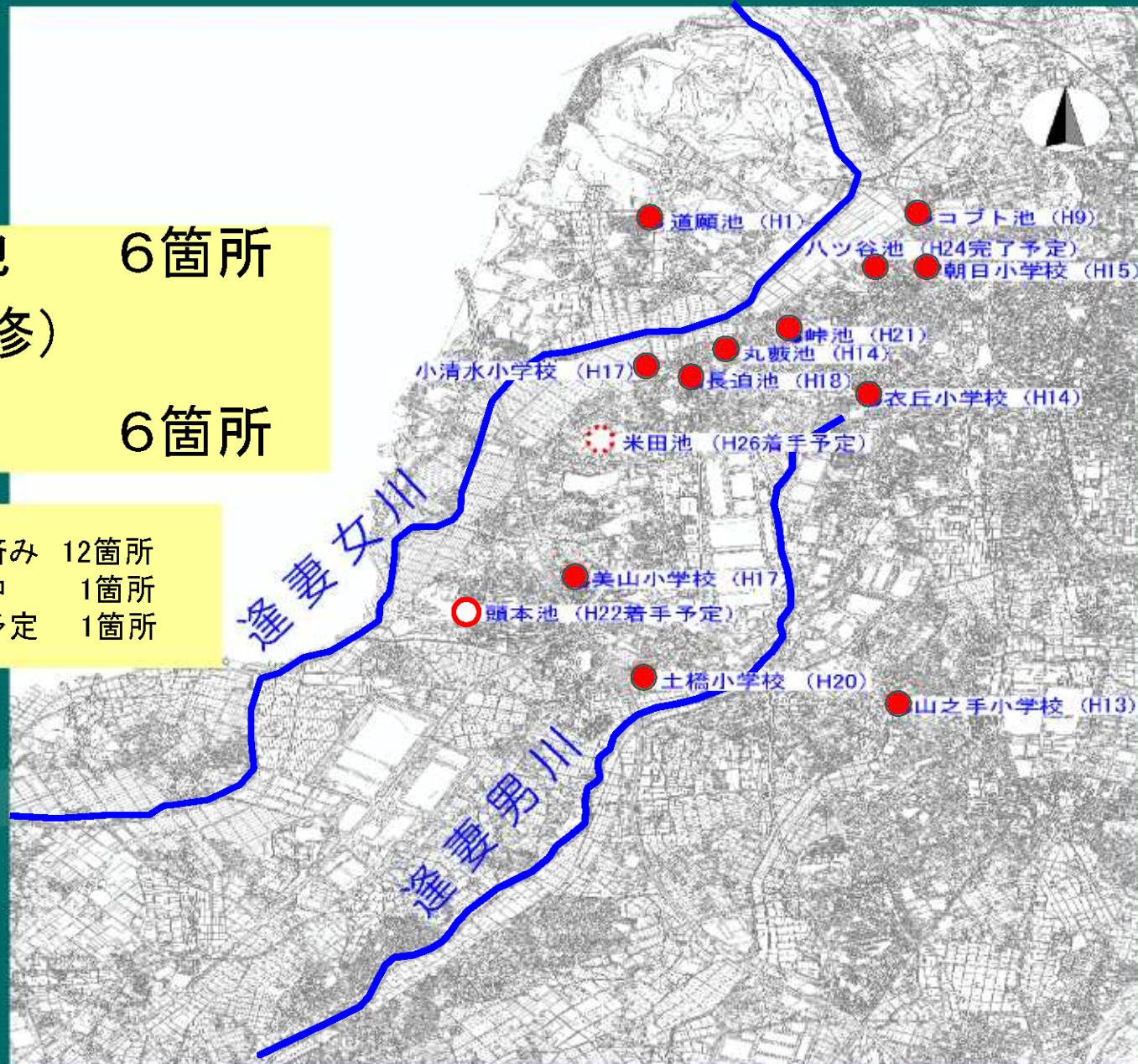
豊田市による対策施設整備

洪水調整池 6箇所

(ため池改修)

学校貯留 6箇所

- 整備済み 12箇所
- 事業中 1箇所
- ⊙ 着手予定 1箇所



豊田市による対策施設整備

■洪水調整池

《ため池を改修して活用》



長迫池(豊田市新町)

対策量 $V=4,000\text{m}^3$

豊田市による対策施設整備



■学校貯留
《グラウンドの地下に貯留》

衣丘小学校(豊田市三軒町)

対策量 $V=1,300\text{m}^3$



民間開発による対策施設整備

《1,000㎡以上の開発に対する行政指導》

■調整池

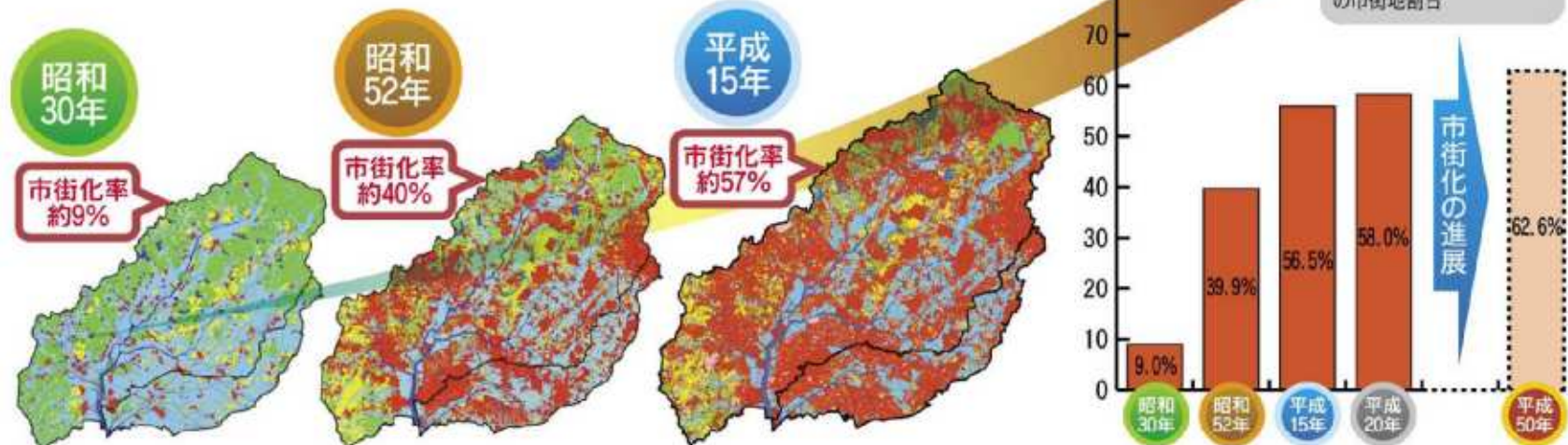


近年における流域の状況

流域での市街化の進展

市街化の進展とその影響

流域の市街化率はこれまでの総合治水対策の想定(H2年時点約50%)を超え、平成20年には約58%と推定されていて、今後も市街化が進むと想定されます。



市街化が進むと河川への流出が増えます

開発が進むと短時間に多量の表流水が河川へ流入し、
浸水被害が起こりやすくなります

市街化がもたらす影響は？

●開発前は……

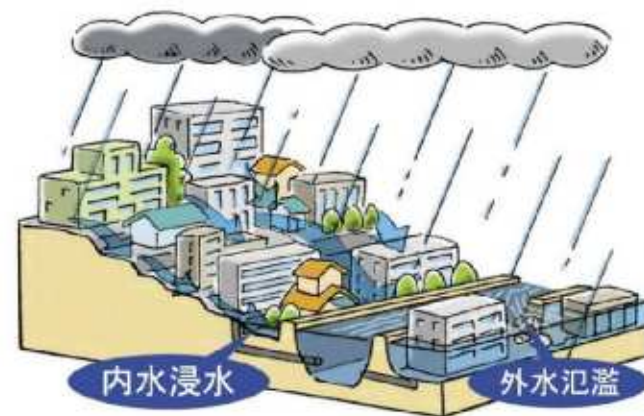
雨水の多くが地中に浸透したり、水田やため池に貯留され、河川への流出が抑えられています。



市街化の進展

●開発が進むと…

地表がコンクリートなどで覆われ、水田やため池がなくなることで、短時間に多量の表流水が発生し、河川へ流入します。表流水の量が多くなると川に入る前に流域に溢れてしまう内水被害が発生します。



堤防が破堤する被害(東海豪雨)

流域から河川に流れ込む洪水が増えると、河川が破堤して、さらに大きな被害が生じます。

堤防が破堤(外水氾濫)



石ヶ瀬川2.2k右岸(東浦町森岡)

豊田市内(東海豪雨被災状況)



逢妻女川右岸(駒新町)



国道155号(駒場町)



自動車部品工場(駒新町)

流域から河川への流出量は増加傾向です



→今まで総合治水対策を実施してきましたが、
それでも急速な市街化の進展に対策が追いつきません

河川整備のみでは対応できません



そのためには総合治水対策を
継続していく必要があります

今までの総合治水対策を継続

流域内の浸水に
対する安全の
確保のためには

さらなる
強化が必要

★特定都市河川浸水被害対策法の適用が必要

特定都市河川浸水被害対策法の適用 により確実となることは

①開発に対する貯留浸透施設の設置の義務化

②河川整備・下水道整備などのさらなる推進

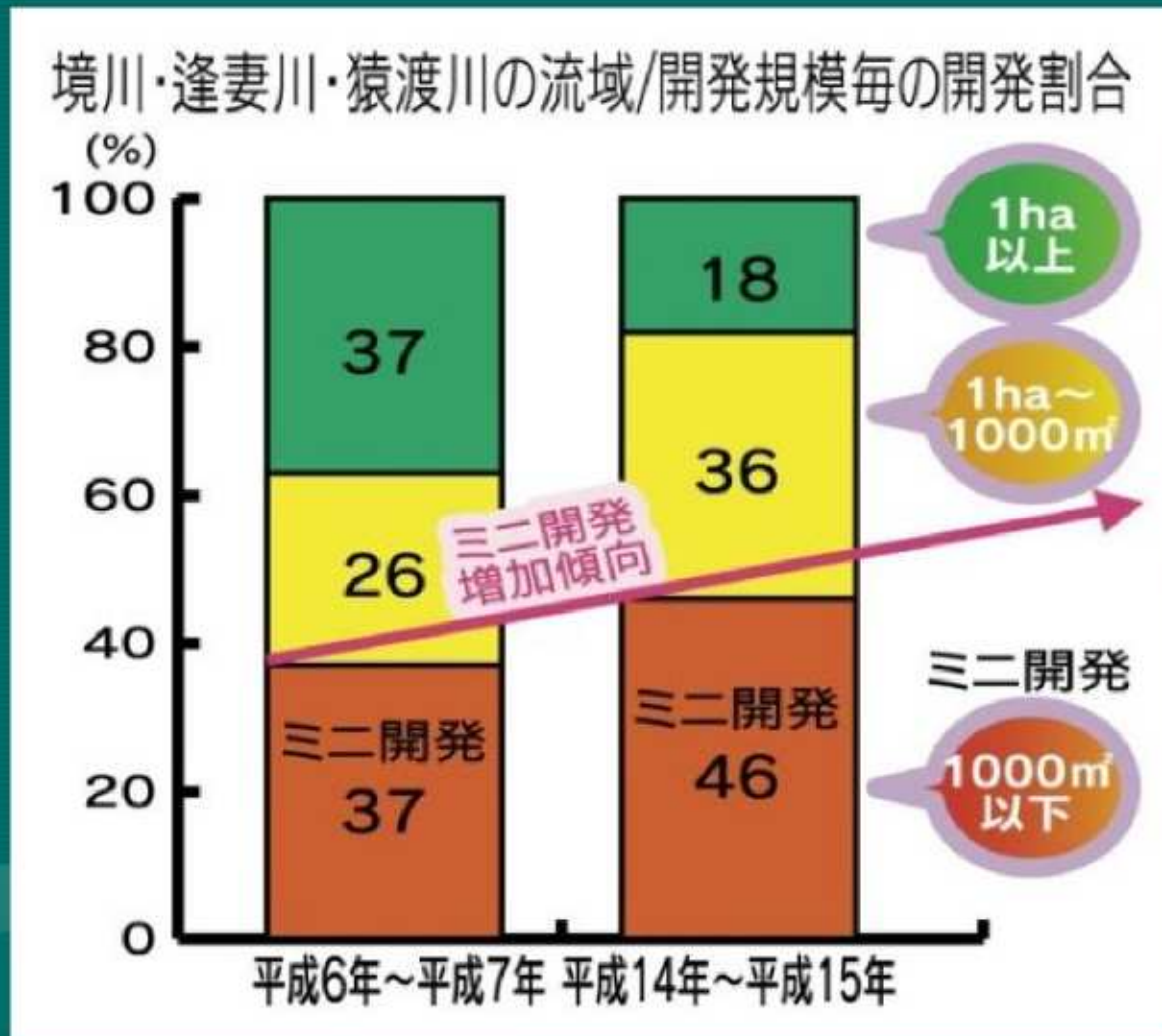
③農地湛水について、湛水深・湛水時間の減少

総合治水を確実に推進するために
特定都市河川浸水被害対策法を
平成24年4月1日から適用します

境川(逢妻女川・逢妻男川)・猿渡川の
流域で、**500㎡以上**の開発を行う際には、
雨水対策のための**許可が必要**となります



なぜ、対象範囲が500㎡以上なのか？



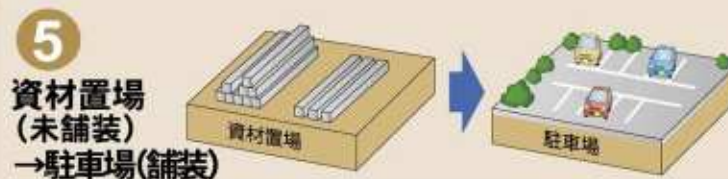
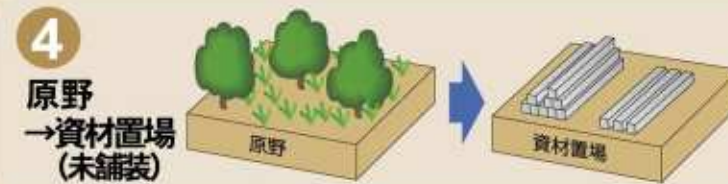
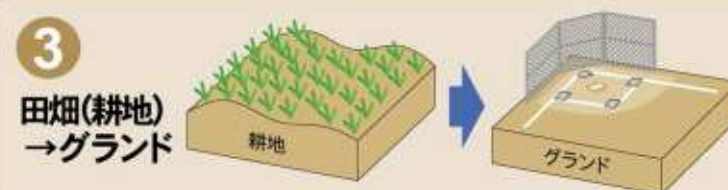
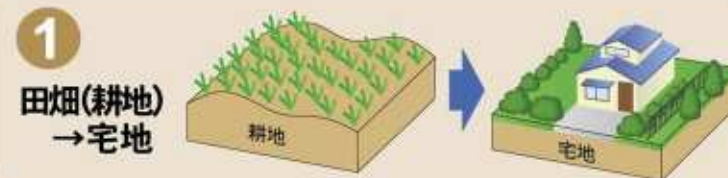
開発の半分近くが1000㎡以下のミニ開発です

許可が必要な具体例

☆ 田畑などの締め固められていない土地で500㎡以上の開発等を行なう場合

※対象となる行為は、土地の形状を改変し、雨水を地下へ浸透しにくくする行為

☆ 既存住宅の建て替えは対象にはなりません



許可には、このような対策が必要になります

① 浸透ます



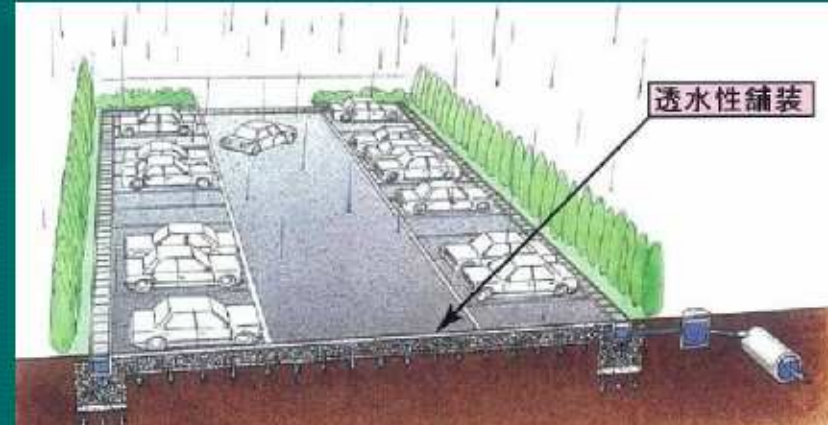
② 浸透トレンチ



③ 地下貯留



④ 透水性舗装



対策施設例 ①浸透ます



雨水を穴の開いたますから地中へ浸透

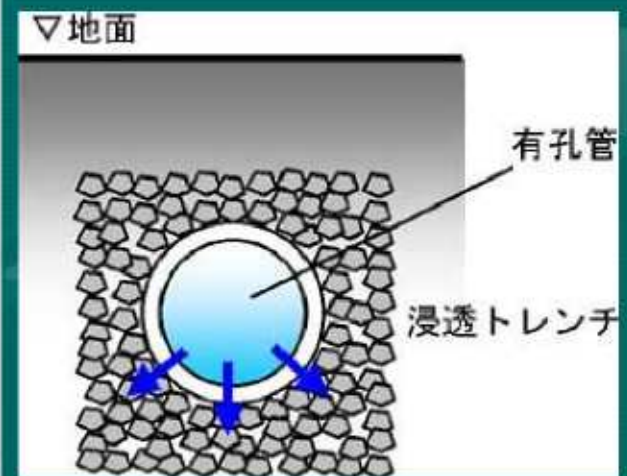
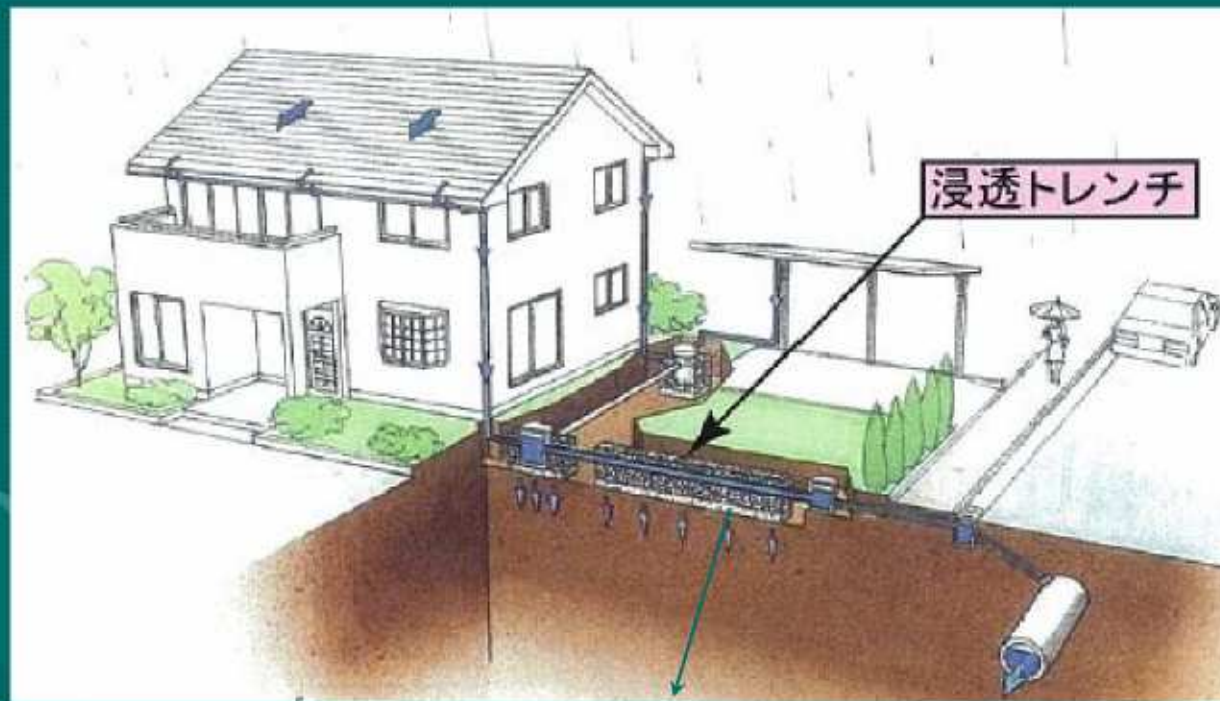
対策施設例 ①浸透ます



浸透ます



対策施設例 ②浸透トレンチ



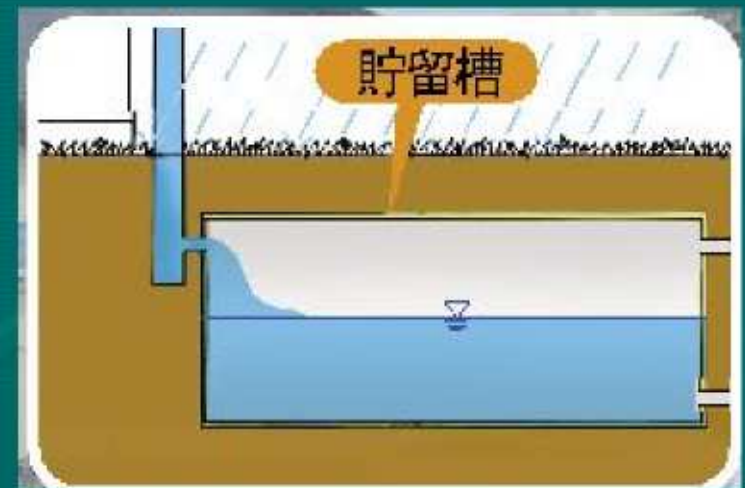
雨水を穴の開いた管から地中へ浸透

対策施設例 ②浸透トレンチ



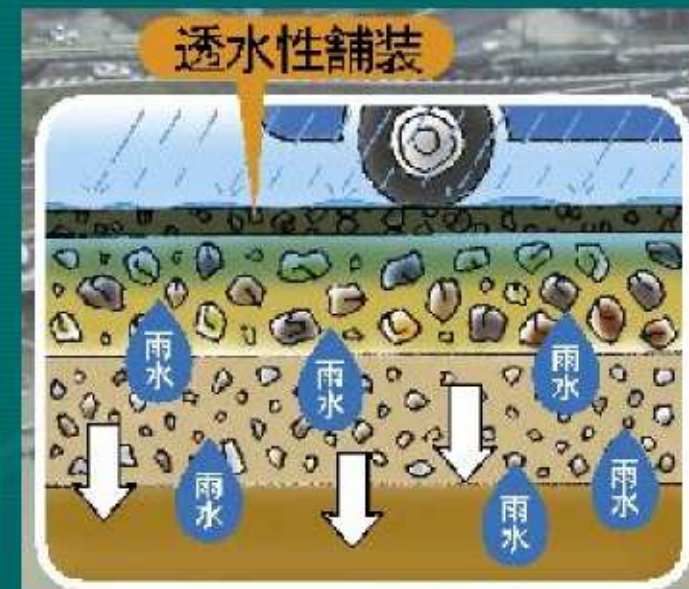
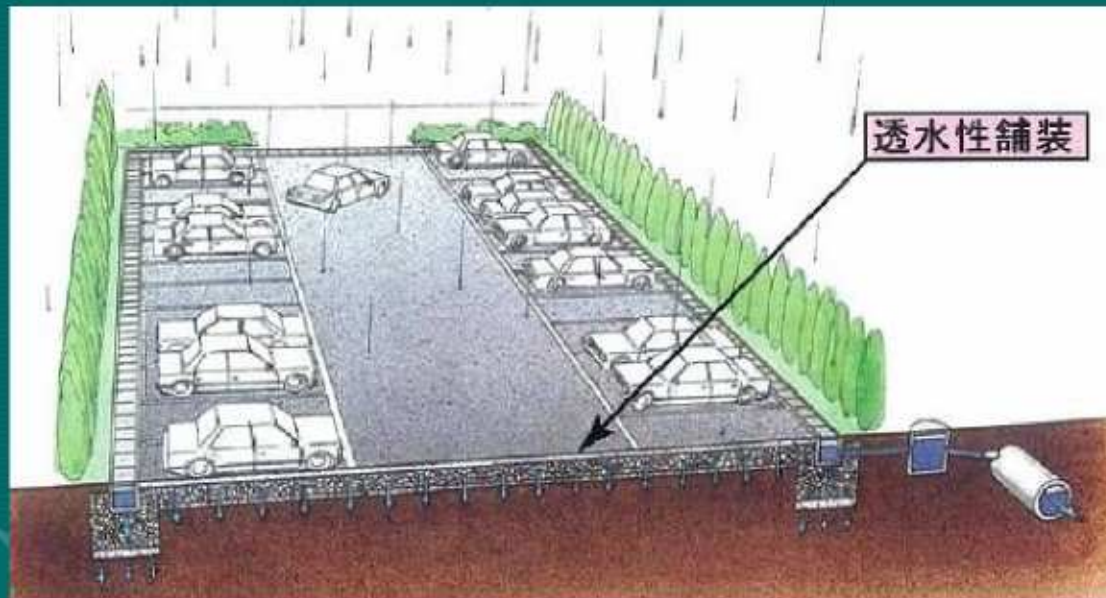
浸透トレンチ

対策施設例 ③地下貯留



雨水をいったん貯留槽に貯めてから排水

対策施設例 ④透水性舗装



雨水が舗装自体にしみ込み地中へ浸透
あわせて、駐車場の表面に雨水を貯める

具体的な対策施設の設置例 (開発面積500m²の場合 農地→宅地、駐車場)

共同住宅

の場合



- ・浸透ます 5個
- ・浸透トレンチ 60m
- ・透水性舗装 210m²

分譲住宅

の場合



- ・地下貯留浸透施設 25.5m³
(3棟分)

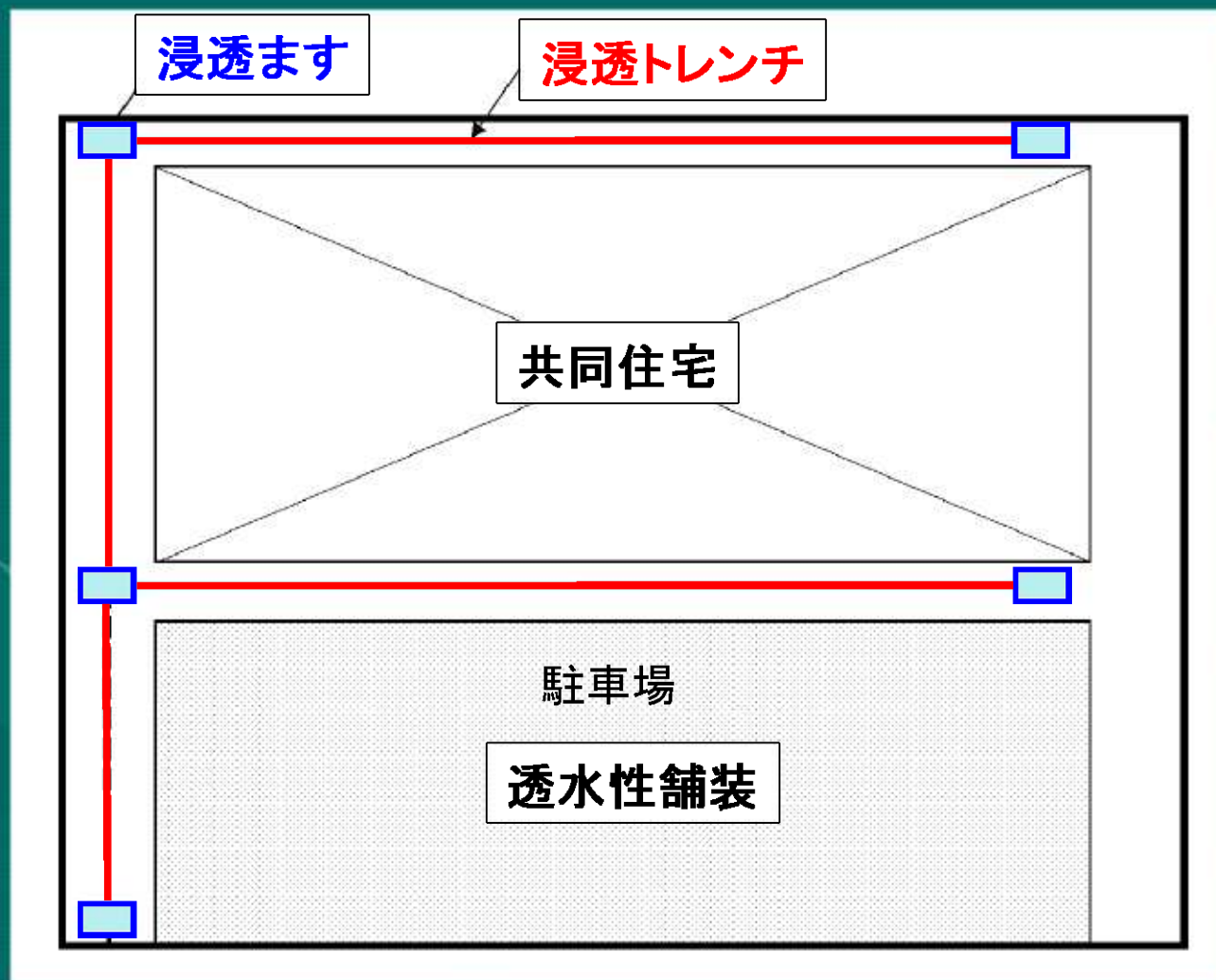
駐車場

の場合



- ・透水性舗装 485m²
- ・コンクリートブロック 64m
(表面貯留 10m³)

対策施設の設置例① 共同住宅の場合 (開発面積500m²の場合 農地→宅地、駐車場)



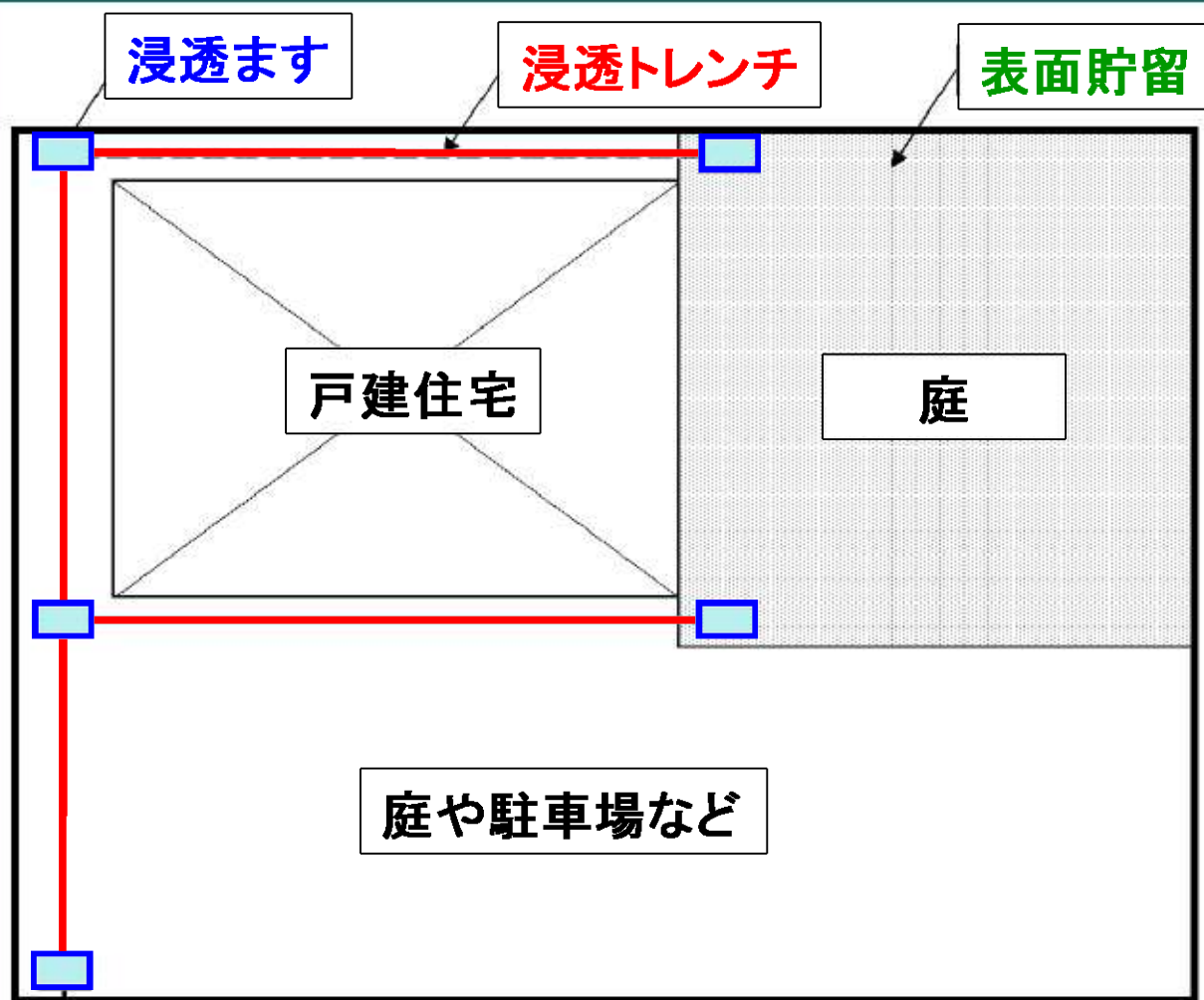
必要対策量
約17m³

- ・浸透ます 5個
- ・浸透トレンチ 60m
- ・透水性舗装 210m²

増額 約25万円

※必要となる対策施設は土地の状態によって変わります。

対策施設の設置例② 戸建住宅の場合 (開発面積500m²の場合 農地→宅地、駐車場)



必要対策量
約17m³

- ・浸透ます 5個
- ・浸透トレンチ 50m
- ・表面貯留 約10cm
コンクリートブロック 36m

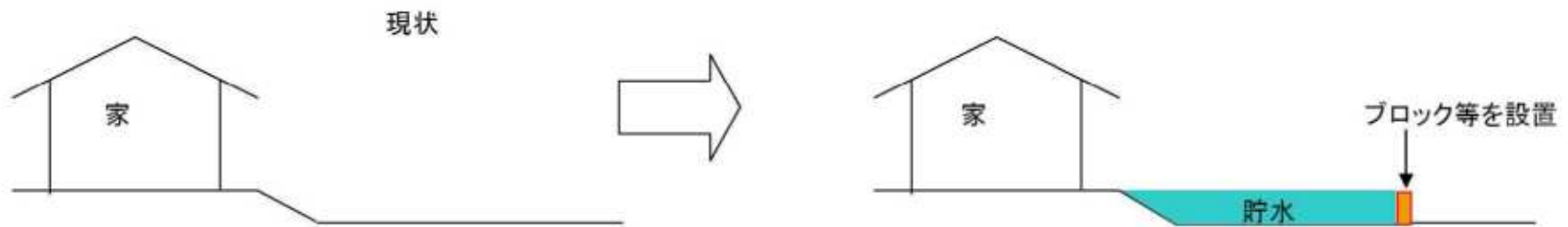
増額 約20万円

※必要となる対策施設は土地の状態によって変わります。

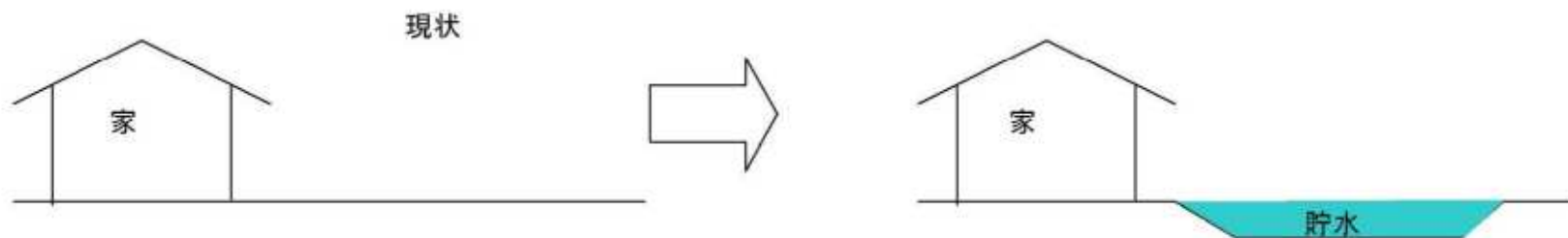
表面貯留はどのように行うの？

表面貯留の例

ブロック等で囲む場合



地面を掘り下げる場合



『特定都市河川浸水被害対策法』 適用で、期待される効果

☆10年に一回の降雨(1時間で約63ミリ)に対して

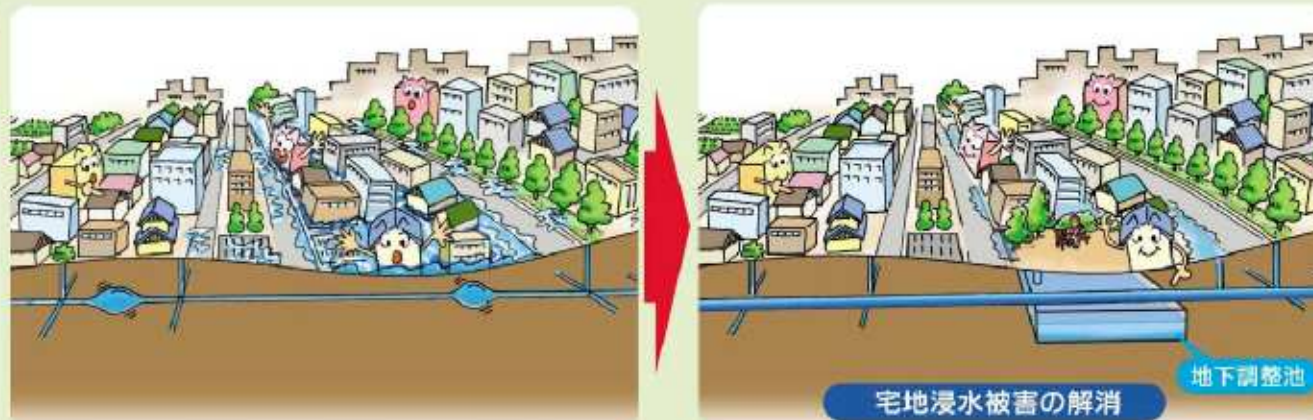
河川では

堤防の破堤
や氾濫を防
ぐことができ
ます。



流域では

宅地浸水被
害を軽減さ
せることが
できます。



※概ね30年後をイメージしています³⁸

**H24年4月1日から
特定都市河川浸水被害対策法を適用し、
10市2町で流域が一体となって
取り組みを行っていきます**

**みなさまの ご理解 ご協力を
よろしくお願いいたします**

次 第

開 会

- 1 あいさつ
- 2 特定都市河川浸水被害対策法の適用について説明
- 3 質疑応答
- 4 その他

閉 会

地元説明会

境川(逢妻女川・逢妻男川)・猿渡川流域での
特定都市河川浸水被害対策法
適用について

以上で終了となります。

皆さま本日は、

大変ありがとうございました。